

第5回北区基本構想審議会部会1「躍動」 議事録

日 時：令和4年4月22日（金）午後2時00分～午後3時39分

場 所：北区役所第2委員会室

出席者	加藤久和部会長	阪口毅副部会長
	新井雅美委員	大貫新一委員
	織戸龍也委員	葉山相也委員

1 開 会

2 分野別の20年後の望ましい姿について

- (1) 産業振興
- (2) 観光・シティプロモーション
- (3) 地域振興
- (4) 人権・多文化・男女共同参画
- (5) 地域文化・生涯学習・スポーツ

3 職員ワークショップの実施結果について

4 その他

5 閉 会

議事要旨

○事務局

それでは、時間になりましたので、ただいまから、第5回部会1「躍動」部会を開催させていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

本日も大変お忙しい中、当部会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染者数、まだ高止まりの状態でございます。本日もしっかりと感染防止対策をしながら、対面での会議、よろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、委員の変更がございましたのでご紹介をさせていただきますと思います。

北区体育協会の会長、葉山相也委員でございます。

○委員

よろしくお願いいたします。

○事務局

北区体育協会からご推薦をいただいております小澤委員より、本日付で変更になり、葉山委員にお願いすることとなりました。よろしくお願いいたします。

年度が替わりまして、ほかの部会でも委員が変更となってくる予定でございます。葉山委員をはじめまして、変更がございました委員の皆様には、5月の全体会のときに一言ご挨拶をいただければと存じてございます。よろしくお願いいたします。

次に、本日の欠席委員でございますが、大塚委員、名取委員、平井委員、青山委員から欠席のご連絡をいただいております。

それでは、部会長、進行のほど、よろしくお願いいたします。

○部会長

それでは、皆さんこんにちは。

非常に暑い中で、昨日まで曇り、雨でしたが、今日は部会を歓迎してか、晴れということで少し暖かくなってまいりました。また残念ながら、4人の委員から欠席ということですが、残った6人で活発な意見交換ができればというふうに考えております。どうぞ今日もよろしくお願いいたします。

それでは、会議を進行いたします。

本日の部会の議題は、分野別の20年後の望ましい姿について、職員ワークショップの実施結果について、その他ということになっております。よろしくお願いいたします。

まず、分野別の20年後の望ましい姿について、議論していきたいと思っております。

多くの分野に分かれておりますが、それぞれの分野について事務局からの説明の後、皆様方から望ましい姿についてのご意見をいただきたいというふうに考えております。

それでは、産業振興、観光・シティプロモーション、地域振興、人権・多文化・男女共同参画、地域文化・生涯学習・スポーツという五つのタイトルがありますが、まずは一つ目ということで、産業振興について、事務局からご説明をお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

事務局でございます。

事前に送付いたしました産業振興分野の20年後の望ましい姿と、本日席上配付しております産業振興の政策検討シートをご覧くださいませでしょうか。

産業振興分野の20年後の望ましい姿について、まず、1「審議会での主な意見」でございますが、12月にご議論をいただきました産業振興の政策検討シートの1の項目単位でいただいた意見をまとめさせていただいたところでございます。こちらの意見は、他の分野で出た意見や、他の部会で出た意見も反映をしているところでございます。

そして、2「20年後の望ましい姿」、皆さんからいただきましたご意見や、政策検討シートでお示しをいたしました社会・国・東京都の動きや、区の施策の方向性などをもとに、項目単位で20年後の望ましい姿を導き出しております。

事務局から説明をさせていただいた後、本日は、2についてご意見をいただきたいと考えております。(1)から(5)の五つの施策の将来像として、不足しているワードや、不足している文章表現があれば、後ほどご指摘をいただければと存じます。

それでは、2の(1)をご覧ください。

こちらは、経営支援・創業促進についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、中小企業の融資あっせんや相談、人材育成などについて、部会で説明をさせていただきました。

文章をご覧ください。

「区内の事業者が持続的に発展を遂げているとともに、若者から高齢者まで誰もが起業・創業にチャレンジできる環境が整い、創業であふれるまちになっています」。こちらの文章ですが、1の(1)の①の起業する若者が集まり、先端技術活用推進事業などを通じてベンチャー精神あふれる地域になっていることや、(1)の②の区内出店希望の若者の誘致と起業支援の充実などから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の(2)をご覧ください。

こちらは、モノづくりの振興についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、商品開発や産学連携による技術の実用化などについて、部会では説明をさせていただきました。

まず、一つ目の文章の「次世代を担う人材が育成され、事業や技能が円滑に承継されています」。こちらの文章については、1の(2)の①の商工における後継者不足や労働力不足が進んでいることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

また、次の文章の「あわせて、先端技術の活用や販路拡大などの支援、産学・企業間連携の促進により、企業の高付加価値化や経営基盤の強化が図られ、地域経済が活性化しています」については、(2)の②の企業努力への後押しが必要であることや、(2)の③の新しい技術革新を生み出す地区になることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の(3)をご覧ください。

こちらは、生活サービス産業の育成についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、個店の連携やキャッシュレス導入支援などについて、部会では説明をさせていただきました。

「商店街の利便性向上・多様な機能の充実・北区らしさの高まりにより、近隣住民が日々立ち寄るとともに、区内外から多くの人を訪れ、商店街の魅力がさらに増えています」。こちらの文章でございますが、1の(3)の①の街を明るくするにぎわいのある商店街づくりが必要であることや、(3)の③の来訪することでしか買えないモノ・体験(場所性・物語性)が必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の(4)をご覧ください。

こちらは、働きやすい環境づくりについての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、テレワークの推進や健康経営などについて、部会では説明をさせていただきました。

「働きやすい職場環境が整備され、だれもがライフステージやライフスタイルに合った柔軟な働き方を選択し、その能力を存分に発揮し、それぞれの環境の中でいきいきと活躍しています」。こちらの文章については、1の(4)の①の多様な生活スタイルによりワーク・ライフ・バランスが推進されていることや、(4)の④のフレキシブルな働き方、フリーランスの支援などが必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

最後に、2の(5)をご覧ください。

こちらは、主体的な消費生活の推進についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、消費生活相談やエシカル消費などについて、部会では説明をさせていただきました。

「消費生活に関する学習環境・相談体制が充実し、消費者被害が未然に防止されています。また、人や環境、社会に配慮した商品やサービスが提供・選択されています」。こちらの文章でございますが、1の(5)の①のお金の管理・使い方を学ぶ必要があることや、(5)の②の消耗消費社会からリサイクル社会へ移行することなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

以上、簡単ではございますが、産業振興分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

それでは、ただいまのご説明を受けて、産業振興の分野の20年後の望ましい姿についてのご意見やご感想、または施策全体の将来像として不足している言葉、文章表現があれば、ご自由に発言いただければと思います。いかがでしょうか。

私から1点だけ、(1)の文章で「創業であふれるまちになっています」という文言ですが、創業という言葉がいいのか、例えば創業精神であふれるという言い方のほうがいいのか、ご検討いただければと思います。

二つ目が(3)で「北区らしさ」という言葉があって、これは北区にご在住の方々にとってみれば説明をしなくても分かることなのかもしれないですけど、外から見たときに、これをどういうふうに定義するのかということも、ここではないかもしれないですけども、どちらから言及されればいいのかと考えています。文章上の話だけですけども、いかがでしょうか。

○事務局

今の部会長のご意見について、まず（１）の２行目の「創業であふれるまちになっています」、ここを創業精神にあふれるといった文言にするのはどうか、ということについては、文章を精査、検討をさせていただきたいと思っております。

また（３）の北区らしさの高まり、ここであえて北区らしさという言葉を出させていたいただいたのが、大分前になってしまいますが、去年１１月に、区民意識・意向調査の実施結果をお示しさせていただきました。その際に北区の魅力の第１位は利便性が高いこと、また、６４歳以下の全ての世代において第２位は商店街があることを、ご報告させていただいたところでございます。

北区らしさというのは活気のある商店街というのが、シンボルになっているのかなといったところもありまして、あえてここについて北区らしさというのを出させていただきました。ですが、北区らしさという言葉のみを見ても分かりづらいという部分もございますので、また表現の仕方について検討をしていきたいというふうに思います。

○部会長

ここで書かれなくてもいいかと思えます。ほかのところで何か書かれたときに、北区に新しく入ってこられた方とか、あるいは、基本構想は北区以外の方もお読みになられると思うので、そこら辺を少し意識していただければという意味で、よろしく願いたします。

○委員

一言お話をさせていただくと、やはりこの北区らしさというふうに部会長がこだわられた理由というのは、情報発信というのを北区内だけではなく、北区外に対してもする場合には、やはりどういったことが北区らしさで、具体的に北区のメリットはこういうことだというような形をしっかりと示唆する必要性というのはあると思えます。

また商店街ですとか、緑があるまちですとか、働きやすいまちというのを謳っていくのであれば、やはりそれを強化して、強くPRをしていくべきではないかと思っております。

また産業振興というような形で、本当に私は再三発言をさせていただいておりますが、子育てするなら、あと老後生活するならではなく、働く人、北区で働くならというように、もう少し産業振興に対し行政としても目を向けていただいて、それを周りでも少しずつでもバックアップできるような状況をつくっていければなというのが、一番北区として、人が働いて活気が出るような区になっていくのではないかとこのように思っております。

２０年後の望ましい姿といいますと、やはり最初にお話しさせていただいたとおり、北区で働いているの、いいところで働いているねとみんなが羨ましがするような状況をつくって行って、少しずつでも目に見えるようなまちづくりをしていけたらいいと思います。

そうすると、おのずと商店街にもお金が落ちてくるし、観光的にもいろんな形で人が

集まりますし、休日には緑のところに人が流れてくるのではないかなというように、全体的を見たときには、少しずつでも人の流れが北区の中で出来上がっていくのではないかなと思っております。

○委員

私も読み込み不足なのですが、産業振興の話と、その後ろに対しての議事メモが少し重複しているところがあって出たのかなと思っていて、私も皆さんの意見と同じで、北区らしさというところからの先の部分のところ、もっと目に見えてくるといいのかなと思いました。

後ほど、他のものも見ながら再度ご意見させていただければと思います。

○副部長

北区らしさという文言は、私も少し気になったところで、特に住民の方にとっての北区らしさというのは、何となくイメージは湧くのかなと思う一方、外から来る人にとって、ただ商店街を訪れたいと思う人にとっては、北区に行くというよりは赤羽に行くとか、十条に行くとか、そういう北区全体のイメージというよりは、一つ一つの地域と捉えている気がして、やはりその部分が強まっていくと必然的に人がそこに来て、それが全体として北区らしさを肯定してくれるという気はしているので、最終的には北区らしさだと思うんですけど、その前段階の商店街を活性化していくみたいなきには、おそらく北区の1個前のラインのイメージが必要なのかなという気がしました。その点だけ、ちょっと対案が出ないんですけども、そんな感じがしました。

○部長

ありがとうございます。

事務局のほうから今までのお話で何かありますか。

○事務局

事務局でございます。

まず、(3)の北区らしさについてということでご意見をいただいたところでございます。

まず北区らしさとはどこがメリットなのか、というようなご指摘をいただいたところで、働きやすさであったりとか、緑が多いところであったりとか、どこを強く情報発信していくべきなのか、もう少し深めて目指していくべきではないかというところのご意見をいただいたかと思っております。

あともう一つについては、以前の部会でもご指摘いただいたように、北区で働きたくなるような施策といったところで、いわゆる費用をバックアップしていくのかというところの視点も、先ほどご指摘をいただいたところでございます。

今回、施策単位でご意見をいただいて、施策ごとの将来像を、確定していきたいと思っておりますが、まずは(4)の働きやすい環境づくり、ここについての将来像についてはこういった言い回しを使わせていただいているのですが、今いただいたようなご意見

について、少しそういったセンテンスが入れられるのかどうか、また働きやすさだけではなく、その費用をバックアップすることによっての働きやすさなので、ここはモノづくりの振興、(2)のところにも少し関わってくるようなところになるのかなというふうに感じました。

いただいたご意見を精査させていただいて、また文章表現については再度検討していきたいと思っております。

また北区らしさのところ、ここについてもやはり、赤羽、十条に行くという、北区の中の地域といったところに絞っての言い回しとか、文章表現があってもいいのではないかという点のご意見をいただけたというふうに思っておりますので、ここについても、また事務局で精査をさせていただきたいというふうに思っております。

○部会長

ありがとうございます。

それでは、次の分野にいかせていただければと思います。

次は、観光・シティプロモーション分野ということで、事務局からご説明をいただければと思います。よろしくお願いします。

○事務局

観光・シティプロモーション分野の20年後の望ましい姿についてご説明をさせていただきます。この分野の20年後の望ましい姿と、政策検討シートをご覧くださいませでしょうか。

こちらについても、皆さんからいただきました意見や、政策検討シートでお示しをいたしました国や東京都の動きや、区の施策の方向性などをもとに、項目単位で20年後の望ましい姿を導き出しているところでございます。

2「20年後の望ましい姿」の(1)をご覧ください。

こちらは、観光についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、観光協会との連携や魅力の発信などについて、部会で説明をさせていただきました。

まず、一つ目の文章の「これまで紡いできた歴史や文化・伝統などの地域の個性や魅力に加え、公民連携をはじめとした多様な連携により新たな魅力が創出、発信されています」については、多くの委員から意見をいただきました1の(1)の②の北区らしさは、地域によって大きく違う多様なまち、それぞれのまちの個性・魅力を活かすことや、(1)の③の新たな魅力：来て楽しめるような事、物、場所の作成（マンホール、聖地巡礼、北区歴史めぐり、特殊なもの、名物）を作っていく必要があることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

また、次の文章の「それにより北区への関心が高まり、訪れ、回遊し、交流する人が増えて、まちのにぎわいにつながっています」については、(1)の④のウォークブルシティ（回遊性）のまちづくりの考えを取り入れ、まちとまちをつないでいく必要があることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の(2)をご覧ください。

こちらは、シティプロモーションについての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、時流に即したプロモーションやイメージ戦略などについて、部会では説明をさせていただきました。

「地域の魅力の高まりや子どものころからの教育などによって、区民が地域に対して誇りと愛着を感じるとともに、まちをより良くしていこうと主体的に関わる人がさらに増えることで、地域の魅力が一層高まり、定住化にもつながっています」。この文章については、1の(2)の②のシティプロモーションによる定住化の促進が進むとよいや、多くの委員から意見をいただきました(2)の④のふるさと意識の醸成とともに、新たに北区に来た層に対し誇りと愛着が生まれるような取組みなどが必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

以上、簡単ではございますが、観光・シティプロモーション分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、引き続きまして同じように、こちらのほうで何かご意見、ご質問等がございましたら、ご自由にご発言いただければと思います。

○副部会長

この二つにまとめていただいたというところが、おそらくシティプロモーションについては外から人が来るということへのアプローチと、定住者、住民を増やすという二つのアプローチがあるということを前の二つにされたのかなと思って、すごく分かりやすいなと思いました。

一方、20年後望ましい姿の(2)のところは、おそらくさっきの産業のところと関わるというか、働きやすいという部分がアピールされることで、ここで仕事を見つけようとか、住もうとかという人が増えるという側面があるのかなと思いましたので、定住化を促進するというところに何か仕事の部分が入ってもいいのかなと思いました。

○委員

2「20年後の望ましい姿」(1)の交流する人が増えて、まちのにぎわいにつながっていますということですが、まちのにぎわいにイコールして、人が増えることなのかどうかということもあると思いますので、その部分の文章というのはもう少し膨らまして、人口増加だけがにぎわい創出という話ではないのかなと思います。

もちろん前文も読めば、最初のほうで歴史の話やらというところからのくだりで、しっかりと補足としてはあるんですけども、結論として最後が人口増をすることがまちのにぎわいというのが答えなのかといたら、実際にいる人たちがどれだけ活性化にして動いていけるかということにつながるんじゃないかなと思います。

後者のほうの地域の魅力や高まり、子どもの教育という話ですが、地域の魅力が一層高まり定住化にもつながっていますということで、同じくこちらも定住化させることがシティプロモーションなのかということですが、何かここに対しては交流し

ていただく、外部から人がたくさん訪れるという状況をつくるということ自体もそうだと思いますし、その観点として人が住まうことだけが観光・シティプロモーションだけではなくて、外部からお金を落としてくれるための回遊性みたいなところが望まれるところで、結果的にそれが産業とのところがもう少し絡んでくるのかなと思った次第です。

○委員

シティプロモーションの部分で、防災のことなども話合いに出ていたと思うんですけども、全体的に文言を見ていると、案としてつくっていただいた20年後の望ましい姿のところで、防災のことが触れられていないなというところがちょっと気になりました。

○部長

何か事務局のほうから答えがあれば、お願いします。

○事務局

まず、定住化のところに働きやすさの部分、そういったセンテンスを入れることができないかといったところのご意見をいただいたと思っております。

先ほどの産業振興のところの部分の(4)の働きやすさの環境の部分についても触れているというところで、ここについては大きな20年後を見たときの政策、施策に対する将来像といったところになりますので、そこのニュアンスが入れられるかどうか、検討させていただきたいと思っております。

また、まちなぎわいについては、人が多く集まる場所ではないといったようなご意見いただいたかと思っております。いる人だけでどれだけ活性化させるのかという、そういった支援も大切だというふうに感じておりますので、その辺、どうしても人が多く集まることでにぎわいがあるというような、そういうイメージを持ちがちですが、そういったセンテンスを入れられるかどうか事務局で精査させていただきたいと思っております。

また(2)についても、定住化だけではなくて、人が訪れること、これもシティプロモーションだということでご意見をいただいたというふうに思っております。なかなか観光にしても、シティプロモーションにしても、その魅力の発信ということであれば同じといったところもありますし、シティプロモーションの一番の目的は、定住化なのかなといったところもあって、こういった側面で書かせていただきました。ただシティプロモーションについては、人が訪れることと、定住化の両方の要素が含まれるというご意見ですので、この文章の修正の有無について検討していきたいと思っております。

また最後に、ご意見いただいた防災でございます。ここについては、政策で分けて将来像というのは作成をさせていただいた関係で、防災・防犯については、部会の3の「創出」部会で議論しています。そのため、防災についての将来像は、防災・防犯でまとめていきます。ご理解いただければと思います。

○委員

この観光・シティプロモーションというと、20年後、30年後でも人を呼べるだけの要素というのを北区は十分持っていると思うんですね。それをやはり、観光資源はたくさんあるのに活かし切れていないという、確かにPRが全然行き届いていないと思うんですね。

渋谷の件にしても、これからお札ができるということに関しても、やはりどうやってプロモーションを起こしていくか。例なんですけれども、新聞で渋谷のドラマのPRがどかんと1面を使って出ていたんですけども、一番下を見たら埼玉深谷市と載っていたんですね。ああ、北区のPRの広告じゃないのかというふうに思ってしまって、絶対にこれはもったいない、もう少しPRの仕方を考えながら、人を呼べるだけの要素はあるので、それをうまく活用していくのが、やはり観光がしっかりと皆さんに対して位置づけをするようなやり方だと思っています。

20年後、30年後には人は変わっていきますけども、そのプロモーションをした結果の場所とかお祭りとか、そういったものは変わってはいかないので、その辺はずっと未来へのそれで人を呼べるだけの魅力が北区にはあると思うので、もう少しPRに対して周知にも力を入れてという形で、少し位置づけとか捉え方をうまく利用していったほうがいいのではないかなというふうに意見を持っています。

700年祭なんですよ、王子神社は。700年の10年、20年後の望ましい姿は、720年たったって800年祭は多分やっていると思うんです。そういったことを考えれば、未来永劫やっぱりいいものはいいので、人が呼べるだけのものが北区にはあるということ、しっかりと呼び込みの理由づけにしていけたらなと思っています。

○事務局

今、ご意見いただいたところの、まず1「審議会での主な意見」(1)の①のところに記載をさせていただいているのですが、観光資源はたくさんあるのに活かし切れていないイメージがある。これは部会のときもご指摘をいただいたところでございます。観光の位置づけといったところでご指摘をいただき、プロモーション自体を促進することによって、人が変わっても北区のすばらしいコミュニティが残っていく、そういったことにもっと力を入れるべきじゃないかのご意見をいただけたと思っております。

この部分で観光についてのPRの在り方、将来像として望ましい姿にどういうふうに言葉で加えることができるのか、今後、事務局で精査をしていきたいというふうに思っています。

○部会長

私も一言だけ、意見ではないですが、ウォークブルシティという言葉が出ていて、何かこれはすごく人の目を引くのではないかなと、私も今改めて思ったんです。これはいろいろな委員の方からお話が出たと思うのですが、回遊という話が出た中でウォークブルシティ、これ、横文字を使うと嫌だという人がいるかもしれません。逆にこれを使うと何だこれは、あっ、そうか、北区っていろんな観光資源もあるし、いろんなまちがあるし、回遊できる場所なんだということで何か使える言葉かなと一瞬思ったんですけど

ども、特に姿とは関係ないですけども、一言だけ申し上げたかったということです。

○事務局

ウォーカブルシティについてご意見いただきました。

今回、皆さんからいただいた意見をそのままを載せさせていただいているというところですが、20年後の望ましい姿を考えたというのは、やはりそのときでもしっかり残る言葉で、平易で誰でも分かりやすい言葉というのを意識しながらつくったところがございます。いただいたウォーカブルシティについては、意見としてはこういった形で皆さんからいただいたということで残させていただいて、将来像としてはその要素を含んだようなものといったところで作成はしていきたいと思います。

○委員

今ちょうどウォーカブルシティの話につながるところですけども、渋沢栄一という言葉がこれから20年先には残していかなければいけないという中でいくと、これ自体が文言としてこれから北区が20年、30年推していくものとして入ってきてもいいのかなと思ったのですけども、その辺はいかがでしょうか。

○事務局

1「審議会での主な意見」(2)の①のところで、渋沢栄一翁で盛り上げを見せた飛鳥山公園のさらなる有効活用や、渋沢栄一という言葉自体をどこかで将来像として残すべきだといったご意見をいただいたと思っております。

この将来像にあたって、固有の名詞、今現在、渋沢栄一はもちろん北区の象徴としてこれからもこのまちづくりに欠かせないワードなのかなと思っているところですが、渋沢栄一というワードについて、20年後の望ましい姿に残すべきか、事務局で精査させていただきたいと思っております。

○部会長

ありがとうございます。

それでは、観光・シティプロモーション分野につきましては、このような形でご意見を出させていただいたということで、次に移らせていただきたいと思います。

次は、地域振興ということで、事務局からのご説明をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

○事務局

次に、地域振興分野の20年後の望ましい姿、説明させていただきます。

この分野の20年後の望ましい姿と政策検討シートをご覧くださいませでしょうか。

こちらの2「20年後の望ましい姿」の(1)は、コミュニティ活動の支援についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、地域団体の安定した運営支援や担い手の育成などについて、部会で説明をさせていただきました。

一つ目の文章でございます。「多様な主体(町会・自治会・NPO・ボランティア・

企業・学校・行政など）が連携して課題解決に取り組むことにより、地域のきずなが育まれることで、新たな担い手が増え、地域が活気づいています」。こちらは、1の（1）の⑥のコミュニティの担い手となる主体（町会・自治会、地縁型NPO、商店街、大学、企業、エスニック・グループなど）の連携が必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次の文章の「また、年齢や国籍等にかかわらず、交流が深まり、人と人のつながりの大切さを実感し、豊かに暮らすことのできるまちになっています」については、（1）の⑨の地域振興の一つの目的は生活の豊かさを高めるということなどから、望ましい姿の文章として導き出しております。

次に、2の（2）をご覧ください。

こちらは、コミュニティ環境整備についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、地域における活動拠点の充実や公共施設の機能の充実などについて、部会では説明をさせていただきました。

「地域活動の場が十分に提供されることで、だれもが集い、支え合い、安心できるコミュニティが自然と形成されています」。この文章については、委員や、創出部会から意見をいただきました（2）の②の誰もが集い支え合うことができる居場所や、子どもから大人までアクティビティを楽しめ、リラックスでき、人とつながることができる場所や、（2）の③のコミュニティが自然に形成される環境づくりが必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

以上、簡単ではございますが、地域振興分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございます。

それでは、この分野に関してどなたかご意見等あれば、よろしく願いいたします。

○委員

今、2「20年後の望ましい姿」（1）の多様な主体（町会・自治会・NPO・ボランティア・企業・学校・行政など）がという表現と、1「審議会での主な意見」（1）の⑥のコミュニティの担い手となる主体（町会・自治会）と書いてあるのと比べると、1の（1）の⑥の書き方だと、人が主体的になって動いているというところは想像されるんですけども、やっぱり2の（1）の書き方を見ると、行政主体型で区民の顔が見えていきづらいなというような印象を持ちました。

○事務局

今ご指摘いただきました2「20年後の望ましい姿」（1）の1行目のところです。多様な主体といったところで、町会・自治会・NPO・ボランティアという表記よりも、1「審議会での主な意見」（1）の⑥のコミュニティの担い手となる主体の例示、こちらのほうが区民、人というのが主体的に見えるのではないかとといったご意見いただいたと思います。

こちらについても、文章の修正等を検討させていただきたいと思っております。

○副部長

まとめていただいてありがとうございます。

なぜコミュニティが必要かというところに関して、何か少しコミュニティが必要だという前提というよりは、コミュニティによって何を解決するのかというところについて、きちんと述べるべきじゃないかという意見が確か部会のときに出ていて、それが防災のことであったり、安心とか安全につながるということであったり、あるいは孤立に対して社会的に包摂していく、誰しもが居場所をそこで感じることをできるみたいなものを書いていたので、単に地域が活気づくとか、交流が深まるとかということ、もうちょっと先に何か具体的にこういうことが解決できるということが書けるといいかなという気がしました。ただ、そこはちょっと兼ね合いがあると思うので、調整いただければと思います。

○事務局

将来像として、にぎわいの創出であったり、活気であったり、そこだけじゃなくてなぜコミュニティが必要なのかといったところ、先ほども防災、孤立の防止といったところでご意見をいただけたかと思っております。

書ける要素というのがなかなか2文、3文程度の中で将来像という施策ごとにまとめたところですので、どこまで書けるのかというところも含めての検討させていただきたいと思います。

○委員

この地域振興分野のときの会議に不参加で、本当に地域振興の代表として参加できなかったのが物すごく心苦しいのですが、やはりボランティアを主体として、皆さん自己犠牲の下に各町会自治会の会長さん、または役員さんというのは参加しているんですね。いろんな形で地域の安全・安心を望む姿というのは、その自治会でどういうふう、本当にこの(1)の①から⑨までと望ましい姿というのは、文字どおり本当に理想の形とって、全てこういう形で生活できればいいのだなというふうに思えるところですが、まだ全然、現段階では手が届いていないと。

20年後に果たして、このままこういうような望ましい姿として記載されているような姿にするにはどうしたらいいのかというのを、もう少し具体的にこういうような関連で考えていくというような文言があってもいいのではないかと。

コミュニティの担い手というのを主体で、例えばここに警察も入れれば消防も入るし、防災訓練もやっていれば、交通安全もやっていると。いろんな形で関わっているし、ここに学校関係のPTAの関連とかも含まれているし、運動会ですとかそういったものでも、いろんな形で携わりがあると。そういったので地域振興というのがあって、初めて皆さんとのつながりができて、お祭りもあれば盆踊りもあるし、そんなところで皆さんが手をつなげられるような状況をつくるというのがやはりコミュニティの根本であり、それを行政としていかにバックアップができるのかと。

その辺もしっかりと考えていかなければいけないというふうには、もう少しうまくこのコミュニティと担い手となる主体のところで、商店街さんには、例えば先ほどの産業振興の立場でプラスしてくれると。大学に対してみれば、どうやって地元に対して学生さんたちを呼び込んで、うまく地元のイベントに参加できるのか。企業さんにしてみれば、地域に関連していただきたい。PTAに関して、親御さんがPTAなんていらないよと、もしそういうことを考えていけば、PTAの必要性とかいろんな形で携わっていけないというのを考えていかなきゃいけないですし、それと同時にやはり町会自治会というのもそこで誰かがやるからいいよとか、どうせというような考え方をすると、そのまち自体がもう本当に崩壊していってしまう。

年齢的にも若い方を釣り上げるには、若い方に対応するようなイベントを多く続けていくとか、じゃあ、ごみの処理はどうするかとか、自転車の放置自転車の処理はどうするのですかと、細かいところまでやはり考えていかないと、まちの維持にはつながっていかないと。

いろいろな意味で、本当に今これだけの意見が出た中で、私がこういうのは言うべきことではないんですが、やはり皆さんには現状を知っておいていただいて、実際どういった形で地域振興を考えていかなきゃいけないのかをもう少し掘り下げてうたっていただいてもいいんじゃないかと思いました。

○事務局

20年後の望ましい姿としては、理想の形にはなっているといったご意見であったかと思えます。ただ現状に合わせると、どうしたらこの理想の状態に近づける将来像になるのかということも含めて記載したほうがいいじゃないかといったご意見だったと思っております。

今、将来像があって、現状があって、その間に将来像に近づけていない課題、ギャップがあるというふうに考えています。そのギャップについて、今後どういうふうに取り組んでいくかというのが、基本計画のところでは施策、事業、そういったところについてもまた10月以降のとき部会でご意見をいただきたいと思っております。

ただ理想の形にするためにどうしたらいいのかという考えも、少しでも含められないかというご意見だったと思っておりますので、ここについては、また事務局のほうで精査させていただきますと思っております。

○部会長

一つだけ質問です。主体といたったときに区民というのは入らないということですか。ずっと町会・自治会・NPOと入っているんですけど、区民というのは、やっぱりこういうときには構成要素に入っていないものですか。

○副部会長

区民は当然入ると思うんですけど、ちょっとここは、組織的な連携みたいところがイメージされていたので、諸団体として、特にこれまで町内会、自治会に負担が集中していたり、それをコミュニティの核として捉えていたところから、もう少し多様なファ

クターとして、組織とか集団レベルでこれを列挙できるのではないかということだったんですけど、当然区民がいるわけです。区民が参加している組織、運営主体であります。

○部会長

ありがとうございます。ずっと下のほうに行ったときに、何か区民はどこにいるのかなと思ったものですから。

○委員

部会のときも私と他の委員からもボランティアでやっていることに対して、その在り方についても見直しとか是正が必要じゃないかという意見は出ささせていただいていたかなと思います。その部分が全く載っていないなというところが一つと、あと先ほどの防災のことについて、それは部会が違うからというお話だったんですけど、このコミュニティ活動とかを語るときに、やっぱり子育てとか、どういうコミュニティが築かれているかというのを本当に具体的な映像が全く見えてこないなという感じはします。

地域のきずながということですけども、子育て団体とか、そういうのがまたほかの部会であるからここには載せていませんということなのかもしれないんですけども、本当に区民がどういうふうに交流していて、何の課題を解決しているのかとかは見えてこないなという感じがしました。

○事務局

今の意見、すごくごもっともだなというふうに感じているところです。

先ほども申し上げたのですが、この20年後の望ましい姿については、各施策に対して2行から3行程度でまとめていくといったところで、政策ごとにやはりつながりというのがどうしてもあるかというふうに思っております。そこで20年後の望ましい姿を掲げて、その望ましい姿をどういうふう to 実現していくのかというのは、先ほど申し上げた基本計画などでもご議論いただき、そういったところでは他の分野へ防災に関わる部分、子育てに関わる部分は、文章に入ってくると思っております。政策ごとにどこかで区切って将来像を検討しなければならないところをご理解いただければと思っております。

○部会長

今、委員のおっしゃっていることはもっともだと思って、多分、部会とか政策ごとに縦割りになっているのですが、その縦割りでやって、その中で全て完成させるということではなく、やっぱりほかの部会を少し見ながら考えていただければ。今後お願いできればと思います。

○委員

こういうときによく課題解決という言い方をされることが多いですけども、どうしてもネガティブな要素に聞こえてしまうので、課題解決こそ、地域にとっての機会だったり可能性ということだと思いますので、その辺の言い回しが少しポジティブな言い方に

なるほうがいいかなと思いました。

(2)のほうの地域の活動の場が十分に提供されることとということ、これは提供されるということは何かしら、どこからかアクションで提供されるというような見え方がしてしまうのかなという気がして、これが組織的な場所としての話なのか、その場所というちゃんとした空間としての話なのかといったこと、2点あると思いますので、何かその辺りをもう少し、ここ2行で表されていますので、膨らましてもいいのかなと思いました。

○事務局

2「20年後の望ましい姿」(1)の後段のほうの課題解決について、ご指摘をいただけたかと思えます。

課題解決こそ、その可能性であって、それをポジティブな何かそういった表現にできないかといったところのご意見だったと思えますので、ここの表記についてまた検討させていただきたいと思っております。

また(2)の地域活動の場が十分に提供されることとということ、場については実際のその空間、あとは(2)のコミュニティの環境整備の①の現状、IT技術などを活かしたといったところで、そういったデジタルの空間といったところも含めての場というふうには書いてはいるのですが、ただここでもなかなか読み取れないといったところもあると思えますので、そこは補記できればと思えます。

○部会長

それでは、次の分野に移りたいと思えます。

次は、人権・多文化共生・男女共同参画分野ということで、事務局からご説明をお願いできればと思えます。よろしく願いいたします。

○事務局

次に、人権・多文化共生・男女共同参画分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきます。

この分野の20年後の望ましい姿と、政策検討シートをご覧くださいませでしょうか。

2「20年後の望ましい姿」の(1)でございます。こちらは、平和・国際交流についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。

政策検討シートの中では、平和意識の普及、平和祈念事業の推進などについて、部会では説明をさせていただきました。

文章でございます。「様々な機会を通して子どもたちをはじめとした幅広い世代の区民のあいだで、平和への意識が醸成され、次の世代へも平和の尊さが引き継がれています」。この文章については、1の(1)の①の戦争についての伝承事業が必要であることや、(1)の②の今の紛争や世界状況について学ぶことなどから、望ましい姿の文章を導き出してあります。

次に、2の(2)をご覧ください。

こちらは、人権・性の多様性・多文化共生についての20年後の望ましい姿を表した

文章でございます。政策検討シートでは、人権啓発、LGBT、パートナーシップ制度などについて、部会では説明をさせていただきました。

一つ目の文章でございますが「年齢や性別、性的指向、性自認、障害の有無や国籍などの多様性を尊重し、認め合い、誰もが自分らしく輝き続けられる差別・偏見のない地域社会になっています」。こちらの文章については、1の(2)の⑥のLGBTQ、SOGIについて、認知が高まり、説明しなくてもみんな知っている状態や、輝き部会から意見をいただきました(2)の⑧の価値観や考え方に大きな違いがあっても、その違いを許容し尊厳のある人間関係を構築する努力が必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次の文章の「国籍や文化の違う人々が、交流を通して、言語や価値観の違いをお互いに理解したうえで、ともに暮らす地域になっています」。こちらの文章については、(2)の⑩の地域に住んでいる外国人との交流や、外国人住民の中のキーパーソンを探し、懇談することや、(2)の⑫の子どもの頃からの異文化理解・異文化交流などから、望ましい姿を導き出しているところでございます。

次に、2の(3)をご覧ください。

こちら、男女共同参画についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、啓発活動や配偶者暴力などについて、部会で説明をさせていただきました。

文章でございます。「性別による固定的な役割分担意識が払しょくされ、個人として認められ、能力・個性を発揮することができています」。こちらの文章については、1の(3)の①の女性活躍や男女共同参画、という言葉自体が消えている社会や、(3)の②の子どもの頃から、男女の別がないような対応が必要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

以上、簡単ではございますが、人権・多文化共生・男女共同参画分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、この分野につきまして、どなたからでもご意見、コメント等をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○委員

ちょっと日本語が分からないというか、(3)の性別による固定的な役割分担意識が払しょくされということと、(2)の差別・偏見のない地域社会になっていますというときに、(3)はもう本当になくクリアなイメージがあって、強烈に伝わってくるというか、そういう状態をつくりますよというのを感じるのですけれども、(2)はそこまでの強さを感じないようなイメージを持ちました。

差別・偏見のない社会になっていますというか、本当になく。それで、その言葉すらもなくなっているというような状態に、やっぱりここ(2)もなっていないやいけないと思うんですね。(3)について議論がされたときに、こんなのもう当たり前だから

こんなことすら、例えばLGBTQ、SOGIについて、そんな言葉すらも必要ない時代になっているよね、20年後はという話だったと思うんですね。それで多分こういうのがつくられているんじゃないかと思うんですけど、(2)もそれと同じぐらいの状態になっていなきゃいけないんじゃないかなというふうに感じました。

○部会長

今のご意見と同じような感じがするのですが、(2)の最初の2行と、(3)のは、ほとんど同じ。逆に言うと、これ、合わせてもいいかなと。役割分担が払しょくされるということを前提として(2)の2行を置き換えてもいいのかなというふうにちょっと思った次第です。あわせて、もし事務局のほうで何かあればお願いいたします。

○事務局

(2)の差別・偏見のない地域社会になっていきますと、(3)の役割分担の意識が払しょくされているという、この言葉の強さが大分違うのではないかといったご指摘をいただいたと思っております。

以前部会のときにも申し上げたように、男女共同参画という言葉自体がなくなればというお話があったかと思うのですが、20年前もやはり男女共同参画という言葉があって、20年後の今もやっぱり男女共同参画という言葉があり、国でもそういった組織がまだあるような状況です。本当であれば20年後になくなってほしい言葉であるにしても、やはり男性と女性というような考え方と、多様性という考え方は、まだまだ残る考え方であり言葉なのかなといったところも感じているところです。

ただ、理想としてはなくなる、そういったお考えといったことも分かりますし、まずこの文章表現について、(2)と(3)についての強さというところもありますので、ここをどういうふうに変えられるか、検討させていただきます。

あと、(2)と(3)は、基本的には同じようなことを言っているのではないかとといったようなご指摘もありました。まずこの施策の枠自体を、5月の中間まとめに出ささせていただく際には、変更はせず、次の10月に基本計画の施策について検討していくという段階で、整理してお示しをさせていただきたいと思っております。

○副部会長

(2)について、割と具体的にいろいろな違いについて列挙するという意味では、かなり突っ込んだ形でやってくださったのではないかと思う一方、2点、コメントがあります。

一つ目は、国籍ということですがけれども、国籍に限らずエスニシティの問題は多様なルーツとか出身地に関わるものなので、などという言葉に入っているという解釈もできるのですが、何かエスニシティとか出身地とか多様なルーツみたいな言葉があると、おそらく国籍で語れない状況にもなっていることがあるのかなと思います。なので、もしかしたら(2)の2文目の冒頭を多様なルーツを持っている人々がとか言い換えてしまうことで、憶測的にできる可能性もあるのかなと思います。それが1点です。

もう一つは、(2)の、(3)もそうですが、どちらかという心構えというか、人

の内面というか、意識みたいなところを問おうという話に落とし込まれていて、何かもうちょっと社会的な排除に対する制度をつくっていくみたいなの、制度的に何かそれを支えていくというような部分があるといいかなと思います。今の段階だと、基本的には区民一人一人の心構えのところに落とし込まれていたもので、ちょっとそこだけ気になったところです。

○事務局

この年齢、性別、性的指向、性自認、この表現については、策定方針の文章を参考にしており、多様なルーツについては、この文章の「など」に含めることができると思います。多様なルーツについて、文字で将来像として出していくべきなのかどうかという点については、再度検討していきたいと思います。

また全体的にこの望ましい姿が意識レベル、心構えのレベルになっているのではないかといったご指摘もいただきました。制度的にどんな制度を使って、どういうふうな状況になっていますとか、そういったところを書けるかどうかを精査させていただきたいと思います。

○部会長

それでは、次の分野について、地域文化・生涯学習・スポーツ分野について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

次に、地域文化・生涯学習・スポーツ分野の20年後の望ましい姿について、説明させていただきます。

この分野の20年後の望ましい姿と、政策検討シートをご覧ください。

2「20年後の望ましい姿」の(1)、こちらは地域文化についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、芸術活動の場の提供や史跡の保存・活用などについて、部会では説明をさせていただきました。

「文化芸術に触れる機会が充実しているとともに、北区固有の文化が継承・発展していくことで、心の豊かさが育まれています」。こちらの文章については、1の(1)の②の文化政策をシティプロモーション、地域産業振興、商店街活性化、コミュニティ形成などと有機的に関連させていくことや、(1)の③のココキタのような文化活動拠点が各エリアにあり、小学生が一人でも遊びに行き、文化芸能に触れる機会がより多く提供されていることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の(2)をご覧ください。

こちら、生涯学習についての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、学習情報の提供や学習の場の充実などについて、部会では説明をさせていただきました。

「生涯にわたって多様な学習機会を活用して主体的に学び、学んだことを活かして地域で活躍しています」。この文章については、1の(2)の①の大学等の教育機関との連携したリカレント教育、社会人大学の充実や、(2)の⑧の1人で楽しむのではなく

人と人とのつながり、コミュニティを作りながら楽しむことが重要であることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の(3)をご覧ください。

こちらは、スポーツについての20年後の望ましい姿を表した文章でございます。政策検討シートでは、区内施設の活用やスポーツ指導者、ボランティアの確保などについて、部会では説明をさせていただきました。

「だれもが身近な場所で気軽にスポーツを楽しむことができる環境が整備され、スポーツを通じた地域住民同士の交流が活発に行われています」。こちらについては、多くの委員から意見をいただきました1の(3)の①のスポーツ・レクリエーション機会の確保。スポーツを通してのにぎわいづくりや、(3)の③の障害者を含め、子どもから高齢者まで、運動を楽しみ、習慣化していることなどから、望ましい姿の文章を導き出しております。

以上、簡単ではございますが、地域文化・生涯学習・スポーツ分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

それでは、今のご説明について何かご意見、ご質問等がございましたら、よろしくお願いたします。

○委員

意見というよりも感想、特に私が主管しております体育協会の立場でのスポーツということになりますと、日頃、頑張っている方々一人一人を見ていますと、若いときはプレイヤーとして子どものときから大学に至るまで。そして地域でもって何かの縁がありまして、勤務先となり、住んでいるとかいうこととなると、プレイヤーを卒業した後、後進の指導に当たり、そしてその中でもってさらに長い間団体の面倒を見て、そういう姿を見ると、本当にボランティアとしても鑑だなという、そういう方々ばかりです。

そういう方々の姿を見て、そしてそれが地域につながっていくと、地域の活動につながっていく。非常に日頃感謝しているわけですが、それらを何らかの形でもってサポートするというのも、体育協会は、行政からご協力いただいているわけですが、けれども、やはり一番難点になるのは場所、それから、費用の問題があります。スポーツをやる場所、またその調整は、非常に大きな問題になっていると思います。区のスポーツ教室などでも、体育館や何かでもってスポーツの普及ということをやっているわけですが、それにしてもやはり場所の問題が大きくなっていくかなど。

場所は、結構どのスポーツも広い空間を必要とするので、大分費用もかかりますし、一步一步やっていくことしかないかとは思っています。また、今まで学校のクラブ活動の延長上にあったものが、やはり近年は各スポーツクラブの方に移りつつあります。その辺の縦割り、横割りのうまいつながりの仕方が、なかなか手探りでもって苦労していると、そんなところでございます。

これからも皆様のご協力と、それから行政の協力を賜りまして、少しでも区民のスポ

ーツ、それから健康に役立つように、そして進めていきたいと思っています。

○委員

(3)の最後の地域住民同士の交流が活発に行われていますは、もちろん絶対に入れていただきたい言葉だなというふうには思うのですが、地域分野というカテゴリーだからかもしれないのですが、ここを見ていると、地域だけにスポーツの言葉が言及されてしまっているような、違和感を覚えます。

スポーツというのは、区内だけで行われるわけではなくて、シティプロモーションと関わってくるかもしれませんが、特に北区は世界に羽ばたいていくというオリンピックに関わるような施設もあるわけで、北区の中だけで小さくまとまってしまうような文章というのはどうかなということを感じます。

北区から世界に羽ばたいていくということとか、あと、外部からスポーツで交流しに北区に入ってくる方もいるわけなので、スポーツを起点として外部交流とか、世界をとるところも外せない点ではないかなと強く感じました。

○事務局

先ほどのご意見で、スポーツをやる場所について課題になっているといったようなことをご意見いただいたところでございます。また学校クラブの活動に関する課題についても、ご意見をいただけたかと思っております。

場所については、2「20年後の望ましい姿」(3)のどれもがといったところで、障害がある方や高齢の方も含めたそういった身近な場所を確保することで、皆さんが気軽にスポーツを楽しめる環境をつくっていく、そういう環境にあることが20年後の望ましい姿ではないのかなということ、事務局でまとめさせていただいたところがございます。

また、(3)の文章が地域寄りになり過ぎているのではないかなというようにご指摘をいただいたところがございます。

政策検討シートの今後の課題をご覧くださいますと、トップアスリーの練習施設や試合が可能な施設を活かすといったことを書かせていただいています。そういった区として、トップアスリーの練習施設やトップアスリーが来る環境があるのだから、もっと世界に向けてとか世界に発信できるスポーツ文化とか、そういったセンテンスがあったほうがよいのではないかなというご意見だと受け止めました。

この辺について、この何行かで、どこまでそういったところも含められるのかといったところもありますが、検討させていただきたいと思います。

○委員

今のご意見もいただきながら、スポーツとして区民寄りの考えなのか、それとも全体的な区としての考えなのかというところを、はっきりとした出所を示唆したほうが良いと思います。

例えば、皆さんにも親しまれるようなスポーツを通じて、住民同士の交流を活発にしようという考えとか、このトップアスリーのまち北区というような考え方にすると、

この趣旨から外れるような文言になってくると思うのですよね。

例えば、赤羽にあるサッカー場にいろんな企業を誘致して、サッカーのイベントをたくさん開催するとか。そうするとそれを通じて、地元の方々がスポーツ選手たちとの交流の場を通じて、生涯学習として皆さんにスポーツを広めていけるとか。

あとは今度、東洋大学が大きな体育館をつくれますので、bjリーグができるということになれば、また北区としても呼びものが一つ増えてくると、それに伴って地域との交流活性化が出来上がると。

それとはまた別に、この地域の交流、自分たちがスポーツをするのか、見て楽しむのかということは別の視点の問題だと思うので、その辺はしっかりとした、はっきりとした視点の違いを区別したほうがいいのではないかというふうに思っています。

また生涯学習の上でも、やはり子どもたちが20年後どういうふうに育っているか、どういうふうに育ちゆく姿を見ていくかということも、デジタル化の推進が必要であるとか、子どもたちをどうやって学習させていくのかも、はっきりしたところの目線から考えたほうがいいのではないかというように思いました。

○委員

生涯にわたって多様な学習機会を提供しというところで、学んだことを活かして地域で活躍しているということと、あとはこれが生きがいになるシニア、老年期の方たちが輝くというか、生きがいをそこで見いだせる地域、住むなら北区というか、最後のときまで自分の人生を学習にあてて、いきいきとして人生を終えることができるという像も本来含まれてくるのではないかと思うのですけれども、そこが見えにくいなというように思いました。

○事務局

まずご指摘いただいたことは、この将来像が区民といったところが主語としてあるのは、区としてどうしていくのか、そこはしっかりと文章としてどちらをメインとして書いていくのかというところを精査すべきだといったご意見であったかと思っております。

やはり20年後の望ましい姿、区民の皆様にとってというのが、大前提になってくると思います。そういったところについてこの文章でそれを受けきれているのかどうか、こちらのほうも、もう一度、精査させていただきたいと思っております。

また生涯学習分野について、デジタル化についてのご指摘もいただいたところでございます。

デジタル技術については、どの政策でもおそらく触れなければならないようなところでして、ポイントとして触れている部分もあるのですが、皆さんにご議論いただいている政策について、どういうふうに区として取り組んでいくのか、区政運営を別立てで、中間まとめのときには、皆さんへお示しをさせていただこうと思っております。

それについて、もちろんデジタル技術の活用についても触れさせていただいておりますし、先ほどプロモーションのところの公民連携の話だとか、そういった区としてこの政策をどういうふうに実現していくのかといったところについてはまとめて、全般に関わることなので、区政運営で触れさせていただきたいと思っております。

また、(2)の生涯学習分野について、地域に活躍する高齢の方がいきいきと自分の技能を地域に還元できるというところが、なかなか見えづらいのではないかとのご指摘をいただいたところでございます。

今回、生涯学習の分野をこの躍動部会に入れるのか、それとも高齢や障害とか、そういった福祉分野が多い輝き部会に入れるのかということは、事務局で協議、検討させていただいたところではございます。

どちらかということと委員がおっしゃるような生涯学習というのは、時間が今あって、そういう自分の持っている技術だとか、今度は学んだことをどうやって地域に還元していくのかといったことを考える方が非常に多いという実情もありつつ、ただ生涯学習の分野については、(2)の①にリカレント教育という記載もありますが、高齢の方だけではなく、若い方も含んだ捉え方をしているといったところで、今回この躍動部会のほうに入れさせていただいたところではございます。ですので、なかなかその高齢の方というのも見えづらい、全般的な文章になっているといったところを、こちらでお伝えをさせていただきたいと思っています。

○部会長

皆様方から五つの分野につきまして、色々なご意見をいただきました。文章についていろいろなご指摘をいただき、また事務局のほうでもそれのお答えをいただいたというふうにご検討しております。

次の議題もあるということもございしますが、まずはこの分野別の20年後の望ましい姿につきましては、今いただきました議論を踏まえて、それぞれの施策につきまして、できるだけ皆さんの今日のご意見を反映した姿を、改めて事務局のほうで作成をさせていただこうというふうにご検討しております。

またその修正に関してなんですが、これは一つお諮りをさせていただきたいと思っております。修正した20年後の望ましい姿につきましては、今の皆様方のご意見を反映した形でつくるということで、部会長一任ということ、今後の作成についてはお任せいただければというふうにご検討しておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○部会長

はい、ありがとうございます。

それでは、事務局のほうで今の皆様方のご意見を踏まえて、再度、検討いただければというふうにご検討いたします。

それでは、次に事務局と相談いたしまして、確定いたしましたそれぞれの施策の20年後の望ましい姿については、5月の審議会の全体会で改めて事務局のほうからご報告をしてもらうということにさせていただこうと思っております。

それでは、次の議題に移らせていただきます。

次は、職員ワークショップについてということで、この点について事務局からご説明をお願いいたします。よろしくご検討いたします。

○事務局

職員ワークショップの実施結果、カラー刷りの資料をご覧くださいませでしょうか。

まず、こちらの資料の2ページをご覧くださいませでしょうか。

前回の部会では、小中高校生や区民向けのワークショップについてご報告させていただきました。今回については、若手、中堅職員によるワークショップについて簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、参加者についてでございます。こちらにお示しのように、35歳以下の職員と、若手職員の政策形成能力の向上と創造的な区政運営を目指し設置しております政策課題研究会（ロゼ）のメンバーで構成させていただいております。

審議会の部会と同様に、躍動、輝き、創出の分野別に議論を進め、それぞれの部会単位での基本目標（案）とその説明文を作成させていただいたところでございます。

続いて、3ページをご覧くださいませでしょうか。

3回実施をいたしまして、1回目については、「各分野において重視すべき要素の抽出」ということで、将来像の要素について検討させていただいたところでございます。

続いて、4ページをご覧くださいませでしょうか。

躍動分野では、「知名度の向上」であったり、その二つ下の「ダイバーシティにおける全活躍型社会」など。続いて、輝き分野については、一番上の「子ども・子育て層のネットワークづくり」、その二つ下の「地域のつながり、生きがいくりでいきいきと長生き」など。また、創出分野については、上から二つ目でございます、「持続可能性社会の形成」、その下の「安心・安全な都市基盤の整備」などについて、まず、将来像の要素について検討してまいりました。

3ページの第2回、第3回についてご説明いたします。

こちらは、2回目については、1回目で導き出した将来像の要素を基に、実現すべき北区の将来像のイメージを検討いたしまして、3回目で分野ごとに基本目標の（案）とそれぞれの考え方を端的に表す説明文について作成しました。

資料の5ページをご覧くださいませでしょうか。

まず、躍動分野における実現すべき北区の将来のイメージでございます。右端をご覧くださいませ。

実現すべき北区の将来のイメージということで、まず、1行目に書かれている「ICTの活用」であったり、2行目に書かれております、新技術を活用した「未来へつなぐ」視点、そして、3行目に書かれております、誰でも、いつでも自由に学び、挑戦できる「全活躍型社会」の実現、その次の行、4行目でございます、誰もが「愛着と誇り」を持って、こういった要素を含む将来のイメージをこちらのほうで文章化いたしました。続いて、6ページをご覧くださいませでしょうか。

6ページの基本目標の説明文を作成させていただいたところでございます。

躍動の1では、「多種多様な価値観ときずなをはぐくむまち北区」、「個性がいきるまち北区」、こういったような目標を立てさせていただいたところでございます。

先ほど将来のイメージを表した文章について要素をご説明させていただきましたが、こちらの説明文につながってまいりまして、ICTを活用して文化芸術を未来へつなぐ。

その次が、下の文でございます。「区民一人ひとりが地域への愛着ときずな」、その

3行目でございます、「自由に学び、挑戦できる全活躍型の社会」、こういった将来のイメージを抽出いたしまして、最後、説明文章につなげていくというのを三つの分野に分かれて実施させていただいたところでございます。

続いて、7ページをご覧くださいませでしょうか。輝き分野における実現すべき北区の将来イメージについてです。

まず、1行目の「子どもの個性・能力を伸ばす」環境づくりであったり、下から四つ目、こちらの4行目に書かれている、「地域のつながり、生きがいくりでいきいきと長生きできるまちづくりの実現」。下から2行目でございます、「区民がカラフルに輝ける環境づくり」。最後の行にある、「世代を超えて健康を楽しめるまち」、こういった将来のイメージを文章化いたしまして、8ページの基本目標や説明文を作成したところでございます。

輝きの1では、「パパ、ママ安心！みんなが主役の生涯輝きタウン」、こういった目標(案)を立てたとともに、説明文、先ほど申し上げた要素、「地域のふれあいのなかで、子どもたちが自由にすくすくと成長でき」、次の文章、「いきいきと個性を輝かせ」というように、先ほどの将来のイメージを文章化したものをここでも使っているところでございます。

下の文章、輝きの2のほうの文章にも、「世代を超えて」というような文章であったり、2行目の「誰もがカラフルに輝くハートフルなまち」、こんなところも先ほどの将来イメージを文章化したもので、説明文を最終的に作っているところでございます。

最後に、創出分野についても、簡単にご説明をさせていただきたいと思っております。

こちらについても、9ページの実現すべき北区の将来イメージ、右端をご覧くださいませでしょうか。

右端の上から三つ目の行にございます、「付加価値のある安全なまちづくりの実現」、その下の行になります、「新たな交流が生まれる拠点づくり」、さらにその下にありません、「明るくてきれいな街並みの実現」、こういった将来イメージを文章化したものを使いまして、10ページの目標をご覧くださいませでしょうか。

創出分野について、1については、「未来に向かって成長していくまち北区」、こちらについても、先ほど申し上げたような、「新たな安全や価値を生み出していき」というような、こういったフレーズを先ほどの要素から使っているところがございます。

また、創出の2については、「明るく、きれいな安心して暮らせる街並み」、先ほどイメージに使っているところがございます。

以上、簡単でございますが、ワークショップについて説明をさせていただきました。

こちらですが、審議会で、また、皆さんからいただいた意見等を踏まえるとともに、今回、若手職員が検討した内容を含めて、それぞれの部会、「躍動」「輝き」「創出」について、部会単位の目標や目標の説明文について、5月の中間まとめについてお示しさせていただきたいというふうに思っておりますので、また、そのときにご意見をいただければと思っております。

以上、職員ワークショップの実施結果について説明をさせていただきました。

○部会長

今、ご説明がありましたように、我々の部会での話、またこういった職員ワークショップの内容を含め、また5月に審議会の全体会で望ましい姿という形での見せていただけるということかというふうに感じております。

ただいまのご説明につきまして、ご質問や、どうぞご自由にご感想をいただければと思います。

○委員

カラフルなまちとかダイバーシティといった言葉が出てくる中で、やっぱりウォーカブルはウォーカブルでよいのではないかと思いました。そのほうが分かりやすいというか、20年後も通じるような気がしました。逆に言うと、カラフルなというのは、個性をとということが言いたいのでしょうか。その言葉の方が分かりづらいなと感じました。

○事務局

あくまでこれは若手職員が考えた案ということで、皆様に共有させていただいて、審議会での議論を踏まえて、部会単位で目標を事務局で作成をしていきたいと思っております。

○委員

若手が片仮名をそれだけ使っているのであれば、20年後のことを考えると、片仮名を使った方がよいのではないかなと思いました。

○部会長

ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(なし)

○部会長

それでは、次に、その他について事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局

その他について説明をさせていただきます。

まず、次回のスケジュールでございますが、本日の開催通知にも記載がありましたとおり、5月27日の金曜日の夕方6時半から第3回の審議会全体会を開催いたします。開催通知については、資料とともに、メールと郵送にて、おおむね全体会開催日の1週間前に送付をさせていただきます。

次回の内容についてでございますが、12月以降、三つの部会でご議論いただきました各施策の意見や、それぞれの部会で確定いたしました各施策の20年後の望ましい姿について、事務局から報告をさせていただきます。あわせて、確定した20年後の望ま

しい姿を受けて、その望ましい状態を実現するために、三つの部会単位で目標を掲げ、その目標を達成するための基本的な考え方や、基本構想の背景と目的、意義と役割、理念、将来像のほうについても構成する中間まとめ案をお示しさせていただきたくて予定でございます。

今、言葉ではご説明をさせていただいたのですが、なかなか中間まとめのイメージが付きづらいかなというふうに思いまして、今日はこちらの基本計画2020をご用意しております。こちらをご覧くださいと思います。233ページをご覧くださいませでしょうか。

基本計画2020の233ページでございます。

こちらについては、現基本構想ということで、平成11年、1999年に立てられた構想です。先ほど申し上げたように、中間まとめの案のイメージについてですが、審議会の議論を踏まえて作成するものについては、同じように233ページにありますように背景と目的、次の234ページでございます意義と役割、次の235ページにあります理念、また職員ワークショップや小中高生ワークショップ、区民ワークショップ、あと昨年の審議会全体会で説明させていただきました区民意識・意向調査やWEBアンケートなども参考にして作成する予定の236ページの将来像、また先ほど職員のワークショップの中にもありました、236ページの下にあります部会単位の基本目標などで、こういったもので構成する中間まとめ案というのを5月の全体会で皆さんにお示しをさせていただきたいというふうに思っております。

また、241ページをご覧くださいませでしょうか。

1の地域産業の活性化の下の文章「産業は、北区で働き」ここの文章をご覧くださいたいのと、あとこちらの先ほど説明させていただきました産業分野のこちらのA3の資料、こちらも見比べてご覧をいただきたいと思っております。

こちらですが、この政策、お示しの政策検討シートでご議論いただく産業振興とほぼ同じ施策を並べているといったところで、この20年後の望ましい姿の右下をご覧くださいたいと思うのですが、先ほどもお示しさせていただいたように(1)から(5)について、20年後将来どうあるべきだ、どういうふうな状態になっていることが理想であるといったところを皆さんにご議論を今までいただけてきました。

例えば、(1)だと創業であふれるまちになっております。(2)ですと、地域経済が活性化していますということで、望ましい姿について皆さんにご議論をいただきました。部会で決定したこの望ましい姿を受けて、その望ましい状態を実現するために、区としてどういうふうに取り組んでいくのかということをお示しさせていただきます。

こちらの基本計画の241ページ、先ほどの地域産業の活性化の5行目をご覧ください、文末をご覧くださいと思いますが「新たな産業分野での進出を支援します」というところから、その下の「生活の場としての魅力ある商店街づくりを支援します」、その下の「働きやすい環境づくりにも努めます」のように、今まで皆さんにご議論いただいた望ましい姿を、区としてどういうふうに取り組んでいくのかということをお示しさせていただきます。

基本構想を策定するこちらについては、令和5年の秋ということで、少し先の話にな

るのですが、中間まとめ案については基本構想のベースということで、案の案ということ、そういった位置づけで考えています。こちらの中間まとめ案については、次回の全体会で皆さんにお示しをさせていただきたいというふうに思っております。

その他について、事務局からは以上でございます。

○部会長

今のスケジュール、また基本構想のまとめの仕方につきまして、何かご質問等がございましたらよろしくお願いたします。

○委員

これをもとに様々な施策がつくられるということで話は伺っておりますが、やはり縦割りにになってしまうのかなというところが気になりました。どうしても北区は大きいまちですし、人口も多いですし、たくさんの課題があつて、それを縦割りにしなければ解決できないという、それもすごく分かることですが、先ほどのお話とか、私も意見させていただいたんですけれども、じゃあ、シティプロモーションというところとかに、やはり防災という言葉であるとか、子育てという言葉とかがカットされてしまうということは、どうしても違和感を覚えます。

ほかのところで書いてあつて、全部を読めばそこもフォローされているということ、それも分かるんですけれども、これをもとに施策をするというときに、また強い縦割り。区が大きくなれば大きくなるほど、人口が増えれば増えるほど、縦割りが強くなっていく施策になってしまうのかなというような、とても区民としてはやりにくいものが出来上がるのかなというような印象も少し持ちました。

○事務局

ご意見、いろいろありがとうございます。

シティプロモーションに防災だけ入れるのかとか、そういう議論がきっといろいろと起こると思うんですね。実際に今回やるのは、あくまでも大枠の羅針盤を作ることだと思っております。みんなでこっちの方向を向いて進んでいきましょうと。

今おっしゃられたようなシティプロモーションの大きい羅針盤の中に防災が必要なのかとか、子育てが必要なのかというのが、ある意味、考え方としては事業を進めていく中で、例えばタイアップとして防災とシティプロモーションが連動した事業をやってみましょうとか、子育てフェスティバルの中で、逆に防災に関することをやって親子で防災を学んでいきましょうとか、そういうところなのかなというふうに思っています。逆に僕ら行政のほうから見ると、施策という大きい枠組みとか政策の大きい枠組みの中に、その一つだけ入っているほうが、何でそこだけ入っているのかと感じます。例えば、他の生涯学習がそこに入ってこないのかとか、何でもいいのですが、教育がそこに入ってこないのかとか、その辺りについてはどのようなイメージを持たれていらっしゃいますでしょうか。

○委員

全くそうだと思うんですね。その単語だけ一つ入れればいい、ちょっと入れればいいというのは、ただおかしいことになってしまうと思います。今のお話を伺っていて、全てが連携して、北区が動いているというようなイメージが分かる言葉とかが入ってくるといいのかなと思います。

○事務局

ありがとうございます。

そういった意味では、言葉の選び方とか使い方というのは、今日も大分皆様方からご意見いただいたので、事務局のほうでももう少し言葉を探してみたいというふうに思います。

多分、今、委員がおっしゃられた話も一つの例示だというふうに僕らは受け止めていますので、そのシティプロモーションは、僕らも今全庁を挙げて、幅広でどの課も関係なしにそこで連携してやっていこうというような形で仕事を進めさせていただいていますので、もう少しものによってはそういったエッセンスが見えるように、いろいろ検討していきたいというふうに思います。

○部会長

ありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。

(なし)

○部会長

それでは、ここまでということにさせていただきたいと思います。

これで第5回部会1「躍動」部会を終了させていただきたいと思います。

どうも皆様ありがとうございました。